

宇野重規著「西洋政治思想史」有斐閣アルマ、有斐閣 2013年10月20日刊を読む

## 西洋政治思想史における『読みの伝統』とは

1. (1) 「それでも、筆者が蛮勇をふるって本書を執筆したのは（現在において、一人の著者が西洋政治思想史の教科書を執筆するのは、まさしく、『蛮勇』であろう）、西洋政治思想史における『読み』の伝統に、自らもささやかなりとも連なりたいという思いからである。
- (2) どれだけ拙いものであれ、今の時代に生きる人間の一人として、『私は、西洋政治思想史の伝統をこのように受け止めました』という、いわば一つの証言として本書を執筆した。
- (3) この本をきっかけに、一人でも多くの方がこの伝統に参加したいと思ってくだされば、著者として、これにまさる喜びはない。」

204～205 ページ

2. (1) 「重要なのは、読むことの重視です。政治思想史においては、『古典（クラシック）』と呼ばれる、一連の書物があります。この場合の「古典」とは、単に『古い本』という意味ではありません。そうではなく、『時代を超えて読み継がれ、つねに参照され続けた書物』こそが、真の意味での『古典』です。
- (2) この意味でいえば、政治思想史とは、『古典』が読み継がれてきた歴史です。本書で扱うどの思想家も、自分なりに『古典』を選び、それを深く読み込むことで自らの思想を形成しました。いわば、『古典』を読み、そこで得られた視座や思考法をもって、自らの目の前にある現実に取り組もうとしたのです。
- (3) そして、そのような彼ら、彼女らの著作が新たな「古典」となっていました。」

vi ページ

## <コメント>

- (1) 福田歓一先生、佐々木毅先生のテキストに引き続き、久々読み終えました。宇野重規先生による西洋政治思想史のこのテキストには、大感激。
- (2) 本書でご紹介いただいている一人一人の思想家が、あたかも私自身に語りかけてくるような親しみを感じたからです。
- (3) 西洋政治思想史における「古典」は、日本政治思想史や東洋政治思想史と比べ、古代から近・現代までかなりはっきりしているので、議論の前提として、これとこれというようにしっかりと学びやすいようです。

皆様も、ぜひご一読を。また、塾生の皆様に、「古典」を読む意味をお伝えください。  
よろしく願いいたします。

本日8月6日は、広島への原爆投下記念日です。「恒久の平和」を皆様とともに祈りいたします。

2019年8月6日(火)7時00分

林 明 夫